# カナダの交通と輸送

東西七つの時間帯をもち、東西間五千二百キロ、南北間四千六百キロ余という、世界で二番目に広大な国。一千万平方キロ近いこの国土に、わずか二千四百五十万の人口――。カナダほど、開拓初期から現在まで、輸送手段を必要としてきた国は少ない。またカナダほど、輸送手段の開発に力を入れてきた国も少ない。セント・ローレンス水系を往復した毛皮商人のカヌー、ニュー・フランス時代のバトー(平底舟)、多数の移民を運んできた材木船や蒸気船の時代から、運河の建設、鉄道網と道路網の整備・拡充、辺境を飛んだブッシュ・プレーンからジェット機を中心とする航空路線の充実、そしてさらにはスノーモービルや近距離離着陸機、快速通勤電車の開発と、カナダは輸送手段をカナダの環境にあわせて発展させてきた。カナダの発展は、こうした輸送網、輸送手段の発展の上に成り立った、といってもいいだろう。

## 縦横に発達した交通・輸送網

### 経済発展と国家統一の基盤

「ザ・ナショナル・ドリーム」――。一八八〇年代まで、カナダといえばトロント、モントリオール周辺のセント・ローレンス川流域と、アパラチア山脈に隔てられた大西洋沿岸の村落で構成されているに過ぎなかった。それを一変させたのは、カナダ太平洋鉄道の敷設であった。当時としては莫大な資金を投じ、さまざまな政治的あるいは技術的障害を克服し、数々の難工事をへて、モントリオールから荒涼たる大平原を通り、ロッキー山脈をこえてブリティッシュ・コロンビア州バンクーバーに至る大陸横断鉄道が完成すると、何百万という人々がカナダ東部、米国、そしてヨーロッパ各地から、カナダの西部へ、西部へと移動していった。カナダ楯状地の豊かな鉱物資源が採掘され、また、農業が発展した。線路に沿って村が、町が、そして都市が育っていった。――こうして今日のカナダができ上がっていった。全人口がわずか四百万という近代カナダの創成期に、西部開拓と国家統一の夢を託してこの大陸横断鉄道の建設にいわば政治生命をかけた初代首相ジョン・A・マクドナルドにとって、鉄道の完成はまさしく「ナショナル・ドリーム」(国家的夢)であった。彼の壮大な夢は、見事に実を結んだのである。

大陸横断鉄道が果たしたカナダの経済発展と国家統一という役割は、カナダにおける運輸交通の重要性を象徴的に物語っているといえよう。その重要性は、今日でも変わっていない。

カナダ北極を通航するカナダ沿岸警備隊の砕氷船。

### 交通輸送・通信技術がテーマ

## エキスポ86

交通輸送と関連の通信技術をテーマとする「一九八六年世界博覧会(エキスポ86)」が、八六年五月二日から十月十三日まで、カナダの西の玄関口バンクーバーで開催される。

この博覧会はバンクーバー市が一年を通してくり広げる市制百周年記念行事の一環として、また大陸横断鉄道完成百周年を記念して行われるもので、カナダの各州、米国のいくつかの州のほか、米国、日本、イギリス、サウジアラビアなど二十数か国の参加が期待されている。

バンクーバーは、ヨーロッパとアジアのほぼ中間に位置し、しかも米国西岸の諸都市と隣接しているため、アジア、ヨーロッパ、中南米、米国、南太平洋を結ぶ交通の要衝となっている。さらに、カナダの二大横断鉄道の西の終点であり、国内で三番目に大きいブリティッシュ・コロンビア鉄道の拠点でもある。トラック輸送、フェリー・サービスも活発で、漁船、水上飛行機も多い。交通輸送を中心とする世界博覧会には、うってつけの場所と言えよう。

しかも、広い国土を〝克服〟するために、交通輸送や通信にとりわけ力を入れてきたカナダだけに、エキスポ86開催の意義は大きい。

博覧会では、カナダをはじめ、参加各国がそれぞれの誇る最新の交通輸送およ